

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 1 章 1-3 節＞

①現代の都市に似ているコリントとそこに生きる人々。

パウロがコリントに初めてやって来た紀元 49 年頃、この町は貿易港を持つ人口 60 万人以上の商業都市として栄えていました。また 2 年に一度開かれるスポーツ大会に人々は興奮し、アフロディーテ神殿には千人の神殿娼婦がいて、「コリント人のように生きる」は「みだらな生活をする」を意味しました。道徳的な退廃も進んでいた (6:9 以下説明) そんな町でパウロが行った 1 年半の伝道で、信仰を持って生きる決断をした人たちが大勢生まれて来たのです。二千年後の横浜に生きる私たちにとっても読みごたえあるこの書をこれから読んで行きましょう。

②パウロの教えに学ぶのはなぜ？ 使徒だから！

「神の御心によって召されてキリスト・イエスの使徒となったパウロ」

(1)。「使徒」とは元々「派遣された艦隊の司令官」を指し、王から全権委任されている点が特徴でした。確かに神様はパウロを特別な仕方で捕え、「私の名を伝えるために、私が選んだ器である」と言われました(使徒 9:15)。私たちが聖書に基づく信仰をしっかりと得たいと思うなら、神様がそのために立てられたパウロに聞いて学ばなければならないのです。そのことをなすために、神様は教会・礼拝・説教を与えて下さったのです。教会は「私の教会」ではなく、「神の教会」(2)なのです。

③教会とは？ キリストを第一に置き、しかも開かれた群れを目指す！

2 節はイエス・キリストの救いを信じて信仰者となった人たちのことが言われています(「名を呼び求める」とはそういうこと)。1~3 節までに、なんと多く「イエス・キリスト」が出て来ることでしょうか！ 教会とはそういう所です。しかし、それはまた、「教会は神様が全ての人を救うために設けられたもの」という視点から考えるとき、違う様相も呈して来ます(「牧師室から」2014 年 5 月号から説明)。「この世の恵みや平和より、「私たちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和」(3)の方がずっと素晴らしい」、そう思いながら伝道に取り組むなら、キリストの神様を第一に置きながら外にも開かれ、しかも揺るがない教会となるでしょう(「兄弟(姉妹)」(1)と呼び合う教会の魅力)。